

総合図書館 清教リブラリア

2024 年度 事業報告

- ・ 中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催
- ・ 高校生一人当たりの年間貸出がついに 10 冊を超える
- ・ さん（高 2A）が探究論文で優秀賞・読売新聞社賞
- ・ 有志活動「清教アカデミカ」発足 7 年目。多様な進路への道拓く
- ・ 企画「探究大全」はじまる



清教学園中・高等学校 図書館教育
2025 年 5 月 27 日

LIBRARIA
SEIKYO



さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。

「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

マタイによる福音書（4章 1-4 節）

目次

I トピックス	p.4
中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催 高校生一人当たりの年間貸出がついに 10 冊を超える さん（高 2A）が探究論文で優秀賞・読売新聞社賞 有志活動「清教アカデミカ」発足 7 年目。多様な進路への道拓く 企画「探究大全」はじまる	
II 施設概要	p.5
III 資料統計	p.6
IV 利用統計	p.8
V 2024 年度の記録	p.11
[第 28 回 図書館を使った調べる学習コンクール] [第 9 回 大阪府高校生ビブリオバトル大会] 有志活動「清教アカデミカ」発足 7 年目。多様な進路への道拓く 卒業生 さんが卒業論文の授業に TA として参加 中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催 企画「探究大全」はじまる 定例の図書館展示・企画・イベント(テーマ展示 9 件/特集展示 34 件/企画・イベント 20 件) [写真集] 2024 年 図書館でのイベントや授業の様子 訪問者 70 件 116 名 大東市立深野中学校が夏季教員研修をリブラリアで実施 [記録] (研修参加 8 件 / 寄稿依頼 8 件 / 学外講演登壇等 31 件・参加者 1591 名)	
VI 課題	p.22
高校の探究学習カリキュラム再検討に向けて 【継続課題】配架スペースの不足を補う書架の増設 【継続課題】スタッフ減によるサービス困難	
VII 清教学園図書館リブラリアのあゆみ	p.23
【巻末特集】探究大全	p.26

I トピックス

中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催(p.13)

これまで中学・高校それぞれで実施していた探究学習の校内成果発表会を、中・高合同での開催に変更。「清教学園 探究 fes.2024」として、3/8(土)に実施しました。中3・高1・高2生全員が発表と参観を行い、中1・中2生は参観しました。高3生を除いた5学年(1340名)が参加。保護者に加え、学外来賓・参観者(43名)も参加し、文化祭・体育祭に次ぐ学校の一大イベントとなりました。



高校生一人当たりの年間貸出がついに10冊を超える(p.8)

長年の課題である「高校生の利用の少なさ」。2023年度事業報告でもその増加傾向を示しましたが、2024年度はさらに伸び、高校生ひとりあたりの年間貸出点数は10.4冊を達成しました。第69回学校読書調査(学校図書館協議会・毎日新聞)によると、全国平均は1.7冊です。一時は清教学園高校も4.0点にまで落ち込んだことがありましたが、近年の高校探究への授業支援、図書館活用が進んだ結果です。今後も高校での探究カリキュラム改訂が、学習支援における重要な課題となりそうです。

さん(高2A)が探究論文で優秀賞・読売新聞社賞(p.11)

「清教アカデミカ」発足7年目。多様な進路への道拓く(p.12)

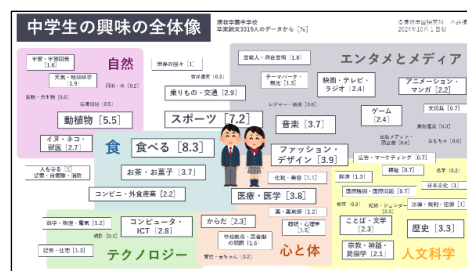
さんは、『なぜネイティヴハワイアンは「ハワイ」から消えたのか：帝国主義政策とマス・ツーリズムの中にみる孤独』をテーマに研究し、小・中・高校生が参加できる公募の研究評価機構の中では老舗・登竜門である「調べる学習コンクール」に応募。優秀賞・読売新聞社賞を受賞し入賞を果たしました。



また、「高校でも探究的な学びに挑戦したい」と発足した有志団体「清教アカデミカ」は7年目に。在学中の研究が生業につながったという卒業生の活躍も報告されるようになり、探究学習の課題設定、「自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」(文科省『高等学校指導要領：総合的な探究の時間』)を体現する教育活動が、目に見える形で結実し始めました。

企画「探究大全」はじまる(p.14 / p.26-31)

18年続いているリブラリアの探究学習。これまで学んだ生徒3328名のデータから、大づかみに「中学生の興味の全体像」を分析・把握できるようになりました。清教学園図書館及び探究科は、分野ごとに、生徒に対してどのような探究学習指導ができるか、どのような本を紹介できるかをまとめ、「探究大全」として公開を始めました。



II 施設概要

名 称：総合図書館 清教リブラリア

所在地：〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

Tel：0721-62-6828（内線 28、29）

代表者：理事長・チャプレン：井上良作 中学高校・校長：森野章二

中学高校・副校長：菊岡秀行 中学・教頭：西村優子 高校・教頭：慎繁範

スタッフ：片岡則夫（探究科非常勤講師）山根美智子（専任司書）南百合絵（探究科教諭・司書教諭）

山崎勇氣（探究科教諭）上河博美（常勤司書）前野昌子（非常勤司書）

生徒数：中学校 454 名（1 年 155 名 2 年 149 名 3 年 150 名）

高等学校 1314 名（1 年 468 名 2 年 418 名 3 年 428 名）

総生徒数 1768 名（昨年度 1734 名）

職員数 148 名（昨年度 151 名）利用者合計 1916 名（昨年度 1885 名）

学級数：中学校 12 学級 高等学校 33 学級 合計 45 学級

設置：2002 年 4 月（「総合図書館清教リブラリア」として現在の場所で開館）

図書館：床面積/約 256 ㎡（カウンター・司書室を含む） 座席数/20 席

書庫（スタディホール・ホール上）

業務端末/7 台 生徒検索端末/2 台 無線 LAN iPad/3 台

蔵書管理システム/LibMax（ソフテック）

図書館発注システム/TOOLi-S（TRC）

総合学習室：床面積/約 98.2 ㎡

座席数/40 席 生徒用 PC/45 台 無線 LAN

スタディホール：座席数/99 席 無線 LAN

ラーニングコモンズ：座席数/96 席

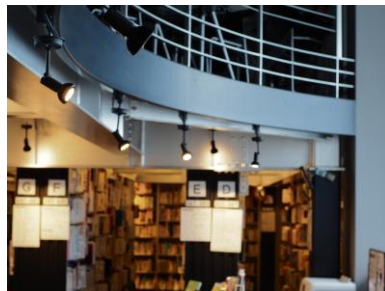
公式 HP・OPAC・SNS：

HP：<https://libraria.seikyo.ed.jp/>

OPAC：<https://www.lib-eye.net/seikyogakuen/>

X(旧ツイッター)：<https://twitter.com/seikyolibraria> (@seikyolibraria)

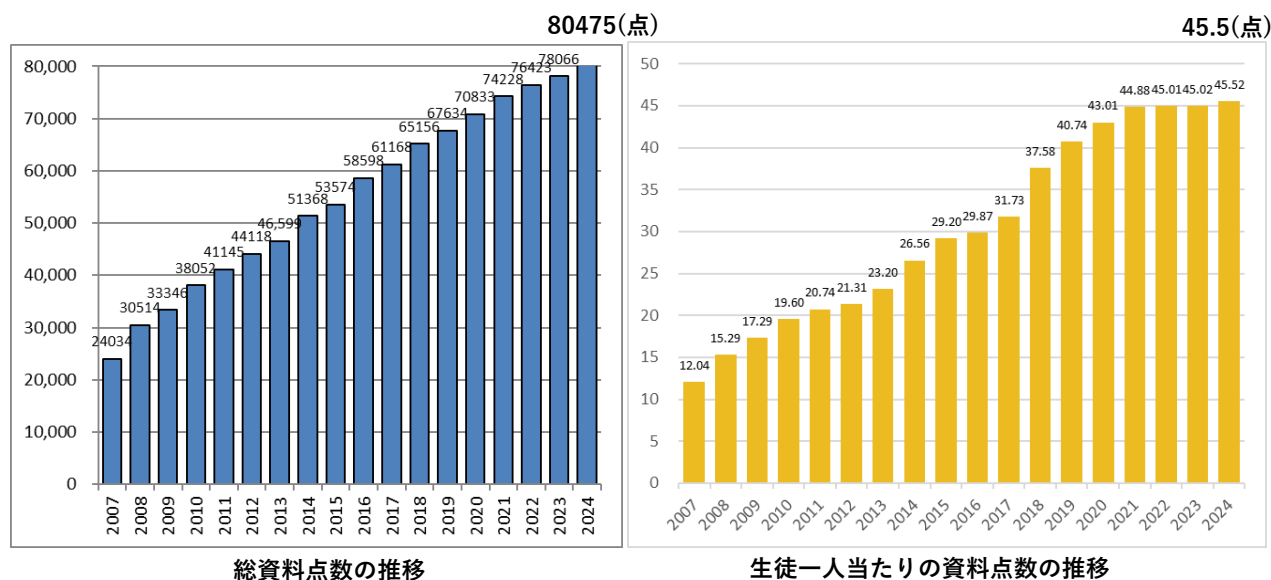
Instagram：<https://www.instagram.com/seikyolibraria/> (@seikyolibraria)



Ⅲ 資料統計

資料数は 80475 点：生徒 1 人当たり 45.5 点で微増

本年度リブラリアの総資料数は 80475 点となりました。2023 年度より 2409 点の増加です。資料数増に伴い、長期にわたって提案しているように、図書館の大規模なレイアウト変更・増築・移転が強く求められる状況が続いています。また、生徒 1 人あたりの資料数は生徒増と廃棄数増が影響して微増となりました。図書館のキャパシティの問題による廃棄目標数達成のため、厳しい選定が続いています。



1. 購入図書点数 3122 点

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
冊数	86	125	406	613	399	211	162	350	65	655	50	3122
%	2.8	4.0	13.0	19.6	12.8	6.8	5.2	11.2	2.1	21.0	1.6	100.0

2. 購入視聴覚数 0 点

3. 寄贈図書 247 点

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
一般寄贈	4	2	18	6	5	4	5	11	0	6	79	140
PTA 学級図書費	3	6	4	20	7	1	7	10	2	47	0	107
冊数	7	8	22	26	12	5	12	21	2	53	79	247

4. 弁償本 23 点

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
冊数	0	1	2	3	0	1	2	1	0	13	0	23

5. 生徒作品（卒業論文等） 163 点

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
冊数	1	4	2	20	16	30	15	54	3	18	0	163

6. 総受入数 3555 点

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
冊数	94	138	432	662	427	247	191	426	70	739	129	3555

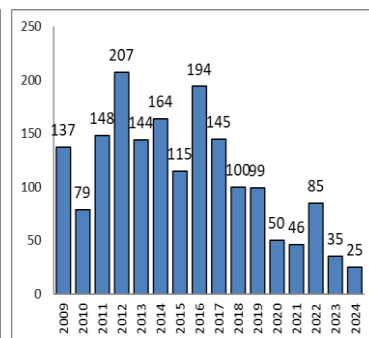
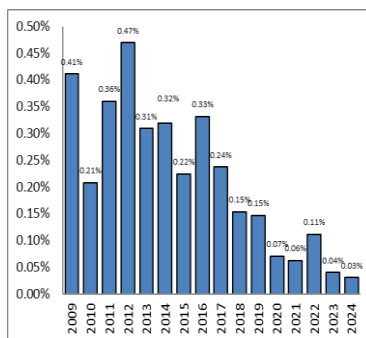
7. 紛失資料数と紛失率 25 点・0.03%

年間紛失率＝年間紛失点数÷蔵書点数×100

今年度被害額＝19,906 円

紛失図書累計 2294 点 被害総額概算 343 万円

(単価 1800 円として)



8. 廃棄数 1838 点 (昨年度 1950 点)

9. 総蔵書数・蔵書構成 80475 点

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
生徒作品	57	44	81	289	359	380	352	471	39	41	1	2114
寄贈	263	328	444	613	531	212	137	617	344	3625	882	7996
蔵書合計	2169	3774	5622	10585	10127	6188	5062	9669	2024	22685	2570	80475
%	2.6	4.6	6.9	13.1	12.5	7.6	6.2	12.0	2.5	28.1	3.1	100

※生徒作品には授業テキスト・事業報告等を含む。まんが・絵本他には視聴覚資料 380 点を含む

10. 生徒一人あたりの平均蔵書数 45.5 点 (昨年度 45.0 点)

11. 教室設置図書 (すくどの本) の冊数 495 冊

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本	英語	合計
中学 12 学級	5	7	4	28	26	2	5	10	4	206	4	30	331
高校 8 学級	5	14	9	21	12	4	1	2	6	89	1	0	164
合計	10	21	13	49	38	6	6	12	10	295	5	30	495

12. 教室設置図書 (すくどの本) の紛失数

中学 32 冊、高校 6 冊、計 38 冊 (昨年度 32 冊) 全体に対する紛失率 7.7%

13. 雑誌 購入 21 誌・寄贈 2 誌

アニメージュ	オレンジページ (隔週)	東洋経済	学校図書館
鉄道ジャーナル	進学通信 (関西版)	私立中高進学通信	Number
ダ・ヴィンチ	THE BIG ISSUE JAPAN	日経エンタテイメント	MOE
月刊ピアノ	ナショナル・ジografica日本版	News がわかる	スクリーン
mg (エムジー)	ロッキング・オン・ジャパン	声優グランプリ	Newton
(季刊) うかたま	JICA's MAGAZINE (寄贈)	ねこのきもち (寄贈)	—

14. 新聞 購入 3 誌

読売新聞	毎日新聞	the japan times
------	------	-----------------

15. データベース 4 件

朝日けんさくくん / 50 ライセンス	ジャパンナレッジ Lib / 1 ライセンス(職員用)
河内長野市立電子図書館 / 生徒 + 教職員全員	日本統計センターMiena's Labo / 40 ライセンス

IV 利用統計

貸出点数 高校生の利用が拡大し 1 人当たり 10 点越え、中学は微減

2024 年度の 1 人あたりの年間貸出点数は全生徒で 18.1 点/年となり、昨年度より 1.1 点増。中学が 40.5 点/年と 2.2 点の微減。一方で高校は 10.4 点/年と 2.3 点の増となり、過去最高を記録しました。第 69 回学校読書調査（学校図書館協議会・毎日新聞）によると、全国平均は 1.7 冊です。

高校の貸出点数の増加は、朝の読書の時間に行っている「出張おためし読書」などアウトリーチサービスや、高校の探究系授業である「Global Studies」での担当教諭との連携の効果と考えられます。また、総貸出点数は 35390 点で昨年度に比べて 2790 点増加。こちらも高校生の利用増が要因です。

一方で、1 年間に 1 冊も借りない「未貸出者」が懸案事項です。今年度の割合は 17.6%で、昨年度 27.9%から 10.3%の大幅減となりましたが、高 3 生の未貸出率が高く、授業外の利用促進が必要です。

開館時間：月曜日～土曜日 8：10～18：00 ※長期休暇中は別に定める

開館日数：272 日（前年度 273 日）

図書館授業利用時間：

【総合学習室】20 時間/週

中 1～3 年総合：各 4 クラス、高 2 キリスト教概論（Global Studies II）：8 クラス

【ラーニングコモンズ】7 時間/週

中 3 オンライン英会話：4 クラス、高 2 キリスト教概論（Global Studies II）：3 クラス

【スタディホール】11 時間/週

高 1 地理総合（Global Studies I）：11 クラス その他（美術の資料探し、保健など）

貸出方法・期間 貸出点数：20 点まで／ 貸出期間：14 日以内 ※長期休暇中は別に定める

年間総貸出点数 35390 点（昨年度 32600 点）

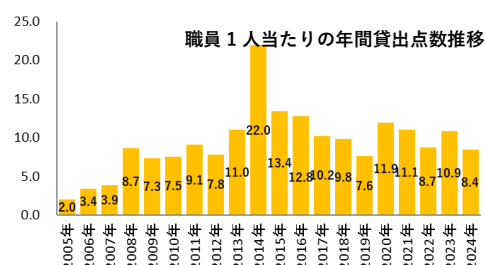
利用者 1 人あたりの貸出点数 [貸出密度]（ ）は前年度

全生徒 18.1 点/年（17.0 点/年）↑

中学生 40.5 点/年（42.7 点/年）↓

高校生 10.4 点/年（8.1 点/年）↑

職員 9.6 点/年（10.9 点/年）↓



開館日 1 日あたりの貸出点数：130.3 点（前年度 120.9 点）

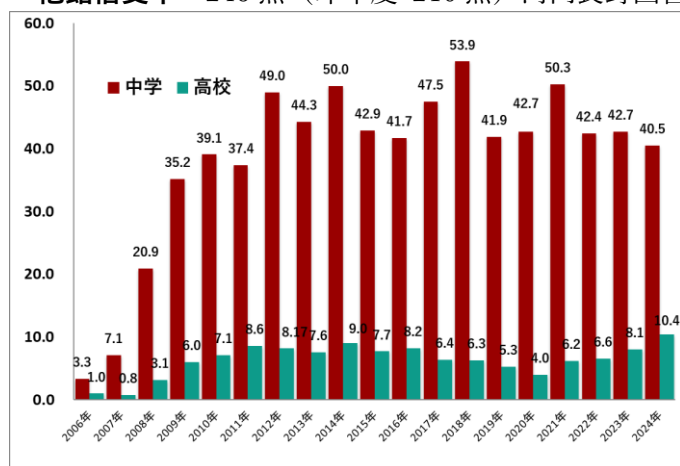
蔵書 1 点あたりの平均貸出回数 [蔵書回転率]（年間貸出点数÷全蔵書点数）： 0.44 回（前年度 0.42 回）

新しい本が図書館にどの程度入ったか [蔵書新鮮度]： 4.4%（前年度 4.5%）

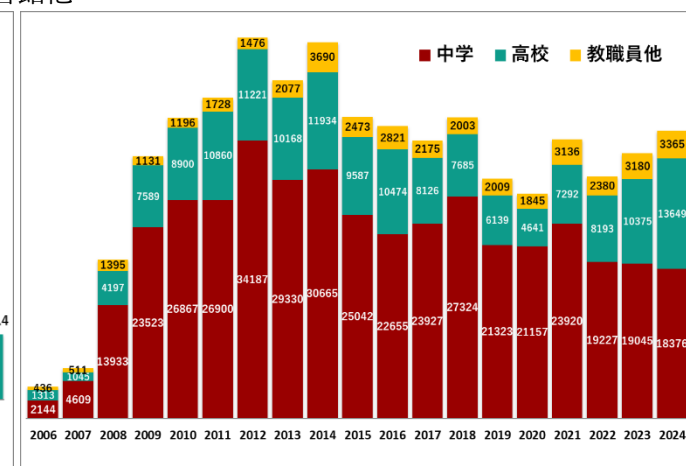
（蔵書新鮮度＝その年の蔵書受入点数÷全蔵書点数×100：数値が高いほど書架に新しい本が多い）

複写申請数 39 件（昨年度 35 件）複合機によるデジタルスキャンの利用増加で減少継続

他館借受本 246 点（昨年度 210 点）河内長野図書館他



生徒 1 人当たりの年間貸出点数の推移



年間総貸出点数の推移

年間貸出統計 [2024 年度]

	中1	中2	中3	中学生 貸出合計	高1	高2	高3	高校生 貸出合計	職員	幼稚園	教科他	総貸 出数	開館 日数	1日 平均	予約/ リクエスト
4月	1405	235	751	2391	547	819	121	1487	103	0	381	4362	21	207.7	95
5月	362	240	1080	1682	402	1598	219	2219	101	0	302	4304	22	195.6	240
6月	959	156	925	2040	272	732	228	1232	102	89	573	4036	24	168.2	154
7月	254	305	904	1463	1509	520	284	2313	178	0	153	4107	24	171.1	202
8月	210	54	141	405	185	130	148	463	65	0	0	933	25	37.3	50
9月	145	224	777	1146	811	377	246	1434	149	0	0	2729	23	118.7	316
10月	99	595	958	1652	712	296	249	1257	87	0	160	3156	25	126.2	155
11月	596	750	855	2201	262	390	202	854	151	144	0	3350	23	145.7	86
12月	205	577	1122	1904	362	294	184	840	159	0	37	2940	24	122.5	102
1月	78	974	634	1686	220	260	113	593	111	0	2	2392	20	119.6	82
2月	36	411	246	693	116	194	184	494	88	97	3	1375	18	76.4	65
3月	171	771	171	1113	193	215	55	463	124	0	6	1706	23	74.2	56
集計	4520	5292	8564	18376	5591	5825	2233	13649	1418	330	1617	35390	272	130.3	1603

分類別貸出点数と回転率

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	視聴覚	絵本	マンガ	その他	合計
貸出 冊数	712	1787	1450	5338	5339	2674	3222	4620	968	8269	8	167	787	49	35390
分類別 回転率	0.33	0.47	0.26	0.50	0.53	0.43	0.64	0.48	0.48	0.36	0.64				0.44
蔵書 回転率	0.01	0.02	0.02	0.07	0.07	0.03	0.04	0.06	0.01	0.10	0.02				

※ 「蔵書回転率」は蔵書1点あたりの平均貸出回数（蔵書回転率＝年間貸出数÷全蔵書数）

※ その他は他館からの借受本など。

すくど文庫の分類別蔵書・貸出統計

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	絵本 ほか	合計
蔵書冊数	64	97	93	259	343	93	106	196	59	1965	10	3285
貸出冊数	20	49	22	53	75	32	28	34	17	384	0	714
回転率	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.12	0.00	0.22

未貸出者率（1年間に貸出がなかった生徒職員の人数と割合）

	教職員	中1	中2	中3	高1	高2	高3	全体
貸出0(人)	105	0	3	5	11	17	200	341
総数(人)	168	155	149	150	468	418	428	1936
割合(%)	62.5	0.0	2.0	3.3	2.4	4.1	46.7	17.6

図書館登校生徒の状況（ ）内は前年度

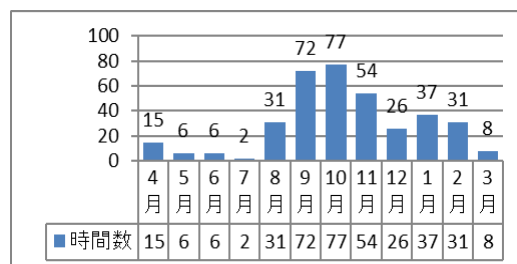
年間利用日数：213日（150日）

利用生徒：17名（23名）

（中1：7名 中2：2名 中3：2名

高1：3名 高2：2名 高3：1名）

総利用時間数：344時間（校時/376時間）



長期休暇中の利用 ()内は前年度

長期休暇中は、開館予定をお知らせして、10:00～15:00 で開館しています。

開館日数：37 日 (37 日)

入館者数：1320 人 (1416 人)

貸出点数：533 点 (627 点)

返却点数：475 点 (475 点)

1 日あたりの入館者数：36 人 (39 人)

1 日あたりの貸出点数：14.4 点 (17.4 点)

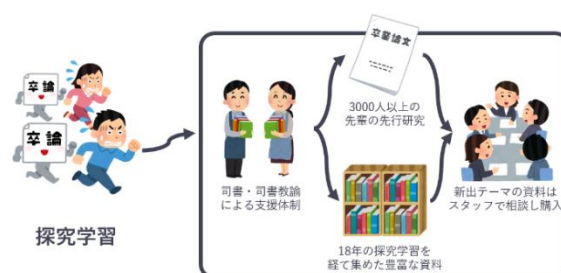
1 日あたりの返却点数：12 点 (13.4 点)

	夏期	冬期	春期	合計
開館日数	21	7	9	37
利用者(中)	224	48	44	316
利用者(高)	723	44	27	794
利用者(職)	53	24	19	96
見学者	97	5	12	114
総入館者数				1320
貸出点数	276	127	130	533
返却点数	215	116	116	447
予約・リクエスト	16	11	0	27

長期休暇中の利用状況

授業支援 & アウトリーチサービス

2024 年度の授業支援は、週当たり 36 コマ中、34 コマ。1 週間の時間割あたり図書館利用率は 94.4%でした。探究学習の授業、中学総合学習 12 クラス、高校 Global Studies 22 クラスが図書館併設教室で行われ、図書館スタッフが参考文献やテーマの相談に応じました。



中1総合学習：「おためし読書」「はじめての探究学習」等 × 4 クラス / 1 単位

中2総合学習：「卒業論文への助走」等 × 4 クラス / 1 単位

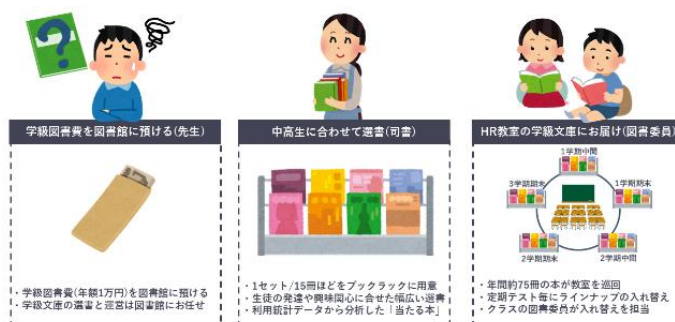
中3総合学習：「卒業論文『なんでやねん』」 × 4 クラス / 1 単位

高1地理総合：「Global Studies I」 × 11 クラス / 1 単位

高2聖書科：「Global Studies II」 × 11 クラス / 1 単位

学級文庫「すくどの本」中学3学年 12 クラス/高校8クラス（希望制）

教室の学級文庫選書と運営を図書館が請け負うサービス。通称「すくどの本」。中学は全クラス、高校は希望制で運用しています。司書と生徒が選書した 20～24 冊の本を定期試験ごとに巡回させ、各クラスに年間 100 冊あまりの本が届けられました。



「朝の読書」出張おためし読書 高校 33 クラス

朝の読書の時間を利用し、「出張おためし読書」を実施。高校 3 学年、全 33 クラスを日替わりでまわりました。前日の放課後に、司書が選書したノンフィクションを生徒の机の上に並べ、生徒は 1 冊を選び、ためし読みします。その場で貸し出しも行い、貸出冊数は 167 冊となりました。

V 2024 年度の記録

[第 28 回 図書館を使った調べる学習コンクール]

主催：公益財団法人 図書館振興財団

さん（高 2A）

優秀賞・読売新聞社賞 調べる学習部門 高校生の部

『なぜネイティヴハワイアンは「ハワイ」から消えたのか：帝国主義政策とマス・ツーリズムの中にみる孤独』



同コンクールは、小・中・高校生が参加できる公募の研究評価機構の中では、老舗・登竜門の位置づけです。清教学園からは中学 3 年次の総合学習で卒業論文を書いた生徒や、図書館が有志を募って指導する研究サークル「清教アカデミカ」のメンバーが毎年応募しています。2025 年度は全国から 12 万 3 千点の応募がありました。

さんは、中学 3 年次総合学習で作成した卒業論文に高校でも手を加え、「調べる学習部門 高校生の部」に応募。名だたる名門校の研究論文を抑えて、優秀賞・読売新聞社賞を受賞しました。ネイティヴハワイアンの状況を文献調査から緻密に検討し、帝国主義政策や戦後マスツーリズムがもたらしたハワイアンの受難を明らかにした点。さらに東京大学副学長であるハワイ研究者や、観光産業従事者への取材など多様なフィールドワークを駆使し、今後の観光産業の在り方を検討した点が評価されました。

【 さんのコメント】

論文作成に励んだこの 4 年の間には大変なこともありましたが、それ以上に沢山の文献や様々な業界の方に出会うことができました。この「探究」を通して自分の興味があることを深く追求することができ、自分の将来の夢を明確にすることができました。

[第 9 回 大阪府高校生ビブリオバトル大会]

主催：大阪府教育委員会

さん(高 2B)

中学生のころから数えると 3 回目のビブリオバトル出場になった さん。大勢の観客の前で堂々と本紹介を行いました。バトル全 21 名の中、予選グループを勝ち上がり、目標としていた本選に進出することができました。新しい本との出会い、人との出会いがあり、刺激的でよい経験になったことと思います。



【 さんのコメント】

自分の好きなことを武器として参加できたことは自分の自信に繋がり、新たな学びを多く得ることができたと思います。また、同じ「本が好き」という同志の人たちと交流し、新しく学べることが沢山ありとても新鮮でした。機会があればぜひまた参加したいです。

有志探究活動「清教アカデミカ」の活動が7年目に。多様な進路への道を拓く

「高校でも探究的な学びに挑戦したい」という生徒が、2017年に立ち上げた有志の活動「清教アカデミカ」。図書館スタッフが取りまとめながら7年間続いてきましたが、参加する生徒の様々な活躍が目立つようになってきました。中学から入学した6年コースの生徒だけでなく、3年コースの生徒も、多様なテーマで力を発揮しています。

さん(高2H)は、自身の経験から「女子サッカー選手のキャリア」をテーマに研究。数多くの文献を読みこなしながら、2024年度は「令和6年度スタートアップチャレンジ甲子園(主催：大阪府/兵庫県)」「大阪府知事×高校生！アントレプレナーシップ激励会(主催：大阪府/大阪産業局)」「関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC2025『学生の力』(主催：関西大学)」などに挑戦。卒業論文の授業を受けていない高校入学生でありながらも、高校2年生から書き始めた論文を独学で完成させました。



また、発足から7年目を迎え、進学実績や卒業生の活躍も目立ってきました。自動車デザインを研究した生徒は進学先に特待生合格しその後も大学で優秀な成績を収め、現在は自動車メーカーで実際にデザインに従事しています。メディアアートを研究した生徒も情報学領域へ進学し、大学卒業後はアニメーション映画のOPやバンドのPVを手掛けているとのこと。食文化や食と経営について研究していた生徒は、大学進学後に経営学的な領域へと興味が変わり、コンサルティング企業への就職が決定しました。

生徒自身の多様な興味関心に、多様な蔵書で応えられるのが学校図書館です。探究学習の課題設定、「自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」(文科省『高等学校指導要領：総合的な探究の時間』)を体現する教育活動が、実際に目に見える形で、成果として結実し始めています。



卒業生 さんが卒業論文の授業にTAとして参加

かねてより構想していた、中高生の卒業論文に対する「TA(Teacher Assistant)」の可能性模索のため、立命館大学・食マネジメント学部 に在学中の卒業生、 さんを採用。喜田さんは中学3年間で探究学習に挑戦し、高校でも清教アカデミカメンバーとして、自身の研究から進路を開拓した一人。2024年度の11月から3月にかけて試験的に、後輩たちの論文指導に関わってくれました。毎週木曜日の中3卒業論文の授業や、有志の活動「アカデミカ」メンバーへの研究指導を担い、教員でも司書でもない存在として、中高生に様々なアドバイスをしてくれました。



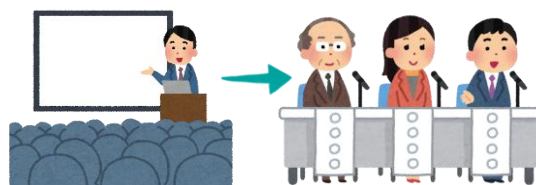
中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催

これまで中学・高校それぞれで実施していた探究学習の校内成果発表会を、中・高合同での開催に変更。「清教学園 探究 fes.2024」として、3/8(土)に実施しました。中3・高1・高2の3学年全員が発表と参観を行い、中1・中2生は参観しました。高3生を除く5学年(1340名)が参加。保護者に加え、学外来賓・参観者(43名、p.22に内訳)も参加し、文化祭・体育祭に次ぐ学校の一大イベントとなりました。各学年の授業概要と発表形式は以下の通りです。

実施学年/授業名称	授業担当	テーマ	探究活動	学習者単位	学習成果物形式
中3 卒業論文「なんでやねん」	司書/司書教諭 (2名)	生徒の 興味関心	文献調査&フィールドワーク 問い・結論・根拠の対応	個人	①論文執筆 ②ポスター
高1 「Global Studies I」	教科教諭 (2名)	社会課題 (SDGs)	SDGs 学習/グループで相談 アクションプラン策定	グループ (4名程度)	ポスター
高2 「Global Studies II」	教科教諭 (2名)	社会課題 (SDGs)	文献調査/グループで相談 アクションプラン策定	グループ (4名程度)	ポスター

発表形式 ①：スライド発表 & パネルディスカッション(特別会場)

関連分野を探究した3組の中高生が登壇。それぞれ学習成果をスライドにまとめ、13分間の発表を順に行いました。発表後、登壇した3組の生徒が一つのテーマについて、40分間の公開討論を実施。ファシリテートを担当する教員が1名つき、議論を促しました。



発表形式 ②：ポスターセッション(一般会場)

一般的なポスターセッション形式。参観者からから自由に質問をつのり、研究内容を踏まえて回答しました。中学生は卒業論文を要約したものを、高校生は探究内容をA0判 / 1枚のポスターにまとめました。



合同発表会の中・高探究カリキュラム連携のはじめの一歩としての位置づけです。2007年からスタートした清教学園の探究学習は、長らく「興味関心を学び論文を書く中学生(及び、かつて存在した高校探究科)」「SDGsなど社会課題を調べ発表する高校生」に分かれ、カリキュラムに隔たりがありました。授業担当者、学習者単位、成果物など、上記表の通りです。中学で学んだ研究分野や論文執筆のスキルが活かされない、高校での図書館利用の伸び悩みなど、中高のカリキュラムの一貫性のなさや、連携の難しさがリブラリアにとっての課題でした。

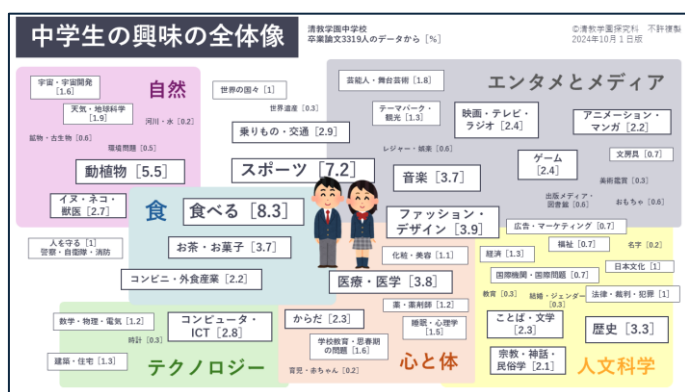
合同発表会は清教学園の探究学習の在り方を検討する機会にもなりました。学内外から全86件の意見が寄せられ、とりわけ中学生の発表に言及する意見が複数見られました。「生徒が自分の興味関心に基づいて深く探究している様子が伝わった」「読書を踏まえて自分で調査する、主体的な取り組みが大変よかった」「生徒たちが自分の言葉で堂々と発表し、質問にもしっかりと答えている姿が印象的だった」など、たくさんの意見を頂戴しました。運営・形式に関する意見もあり、グループ発表の熱量の差や移動動線、会場設営など次年度以降の改善点も浮き彫りに。「賜物をいかす」清教学園のスクールモットーを体現した教育活動として、今後も生徒の興味が花開くような教育活動・発表会を目指します。

企画「探究大全」はじまる(巻末 p.28 に原稿あり)

清教学園リブラリアではこれまで『なんでも学べる学校図書館』などで、「探究学習で生徒たちは何を学んできたのか」「どんな本を提供したらいいのか」という問いに答えてきました。この本のもとになったデータは、2007 年からの 6 年間、約 1300 人分の生徒たちのデータでした。

一方、清教学園中学の探究学習は現在、「卒業論文なんでやねん」という名称となり、18 年目を迎えています。参加生徒の累計も 3328 名と 2013 年から倍以上になりました。そして今日まで、データの分類項目の見直し作業を進め、大づかみに生徒の興味を把握するための作業を続けています。

今回、その作業が一区切りして、「中学生の興味の全体像」の図が作られ、さらにその中の各項目について分析が加えられるようになりました。私たち清教学園図書館及び、探究学習の授業に関わる探究科は、こうした作業を「探究大全」として順次公開することにしました。探究の分野やテーマごとに、生徒に対してどのような学習支援ができるか、どのような本を紹介できるかをまとめたものです。既にリブラリアの HP を通じて公開しており、学外の学術研究者・探究学習指導担当者・学校図書館関係者などから、多くの反応を頂いています。



順位	項目名 学習件名 (大分類)	人数	%	順位	項目名 学習件名 (大分類)	人数	%
1	食べる	279	8.4	18	宗教・神話・民俗学	70	2.1
2	スポーツ	242	7.3	19	天気・地球科学	65	2.0
3	動植物	186	5.6	20	芸能人・舞台芸術	62	1.9
4	ファッション・デザイン	132	4.0	21	宇宙・宇宙開発	56	1.7
5	医療・医学	129	3.9	22	学校教育・思春期の問題	54	1.6
6	お茶・お菓子	125	3.8	23	睡眠・心理学	50	1.5
7	音楽	124	3.7	24	経済	46	1.4
8	歴史	111	3.3	25	建築・住宅	44	1.3
9	乗りもの・交通	97	2.9	26	テーマパーク・観光	44	1.3
10	コンピュータ・ICT	95	2.9	27	薬・薬剤師	41	1.2
11	イヌ・ネコ・獣医	92	2.8	28	数学・物理・電気	41	1.2
12	ゲーム	81	2.4	29	化粧・美容	38	1.1
13	映画・テレビ・ラジオ	80	2.4	30	日本文化	35	1.1
14	ことば・文学	78	2.4	31	世界の国々	35	1.1
15	からだ	77	2.3	32	人を守る	34	1.0
16	コンビニ・外食産業	76	2.3	33	法律・裁判・犯罪	34	1.0
17	アニメーション・マンガ	75	2.3			2794	85.3

清教学園卒業研究 学習件名新ランキング上位 33 位まで(2007-2023)

今後もテーマのランキング上位 50 位までを目標に原稿化を続ける予定です。清教学園が培ってきた探究学習の技術・経験を広く学外に公開し、様々な場で子どもが興味を学ぶような学習を支援する体制づくりに貢献していきます。

Twitter 情報発信統計

	ツイート /累計	ツイート /年間	フォロワー /累計	フォロワー 増加数/年
2015 年度	153	153	192	192
2016 年度	289	136	318	126
2017 年度	425	126	407	89
2018 年度	620	195	545	138
2019 年度	728	108	642	97
2020 年度	881	153	797	155
2021 年度	950	69	943	146
2022 年度	1042	92	1105	162
2023 年度	1131	89	1186	81
2024 年度	1268	137	1560	374



定例の図書館展示・企画・イベント

テーマ展示と「図書館だより」/ 9 件

時期	テーマ	担当
4 月	春の本	前野
5 月	2023 年度第 73 期卒業論文	山崎
6 月	本の中で世界を旅してみませんか？	山根
7 月	ヒヤッとする本	上河
9 月	おためし読書（中 1 総合）ランキング本	南
10 月	キラキラの本	前野
11 月	生誕 100 年の作家・著名人	上河
12 月	ボードゲーム、貸出でき図。	山崎
2・3 月	別れと出会い	山根

その他の特集展示・掲示 / 34 件

時期	テーマ	備考
4 月	中学 72 期 卒業論文	現高校 2 年生の卒業論文の登録が済み、おひろめ
	宗田理さん追悼	『ぼくらシリーズ』ほか
5 月	ポール・オースター追悼	
	中高生が主人公の恋愛小説	
	中 1 おためし読書（フィクション編）	
	中 1 おためし読書（ノンフィクション編）	
	沢知恵さん（シンガーソングライター）記事 雑誌「東洋経済」2024 年 5/25 号	前年清教学園でコンサート開催
6 月	ヨシタケシンスケ	毎日新聞記事とともに絵本展示
	おすすめの本、研究に使った本	アカデミカで生徒が呼びかけ
	聖書科羽島先生推薦本	『日々のみことば』/プレゼンの本
	図書委員 おすすめ本&POP（1 学期）	
	海藻を調べる	理科 磯観察学習
	ルース・スタイルス・ガネットさん追悼	『エルマーのぼうけん』
	さとうわきこさん追悼	『ばばあちゃん』『せんたくかあちゃん』『とりかえっこ』など
7 月	阿部智里『八咫鳥シリーズ』	読売新聞記事とともに展示
	直木賞受賞 一穂ミチさん	『ツンデミック』ほか
	I 先生新聞投稿記事	毎日新聞（7/22）
8 月	高 1 M さん新聞投稿記事	毎日新聞（8/5）・朝日新聞（8・27）
	ノンフィクション作家佐々涼子さん追悼	『エンド・オブ・ライフ』ほか
9 月	エッセイ・随筆読んでみませんか？	中 1 総合「清教中学生日乗」の実施に合わせて
10 月	オーストラリア	中 3 修学旅行に合わせて
	文章の書き方、文章教室	中 1 総合「清教中学生日乗」の参考に
	ノーベル文学賞 ハン・ガン氏作品	
	中川李枝子さん追悼	
	せなけいこさん追悼	
11 月	谷川俊太郎さん追悼	
	クリスマスの本	絵本、小説、料理、讃美歌、起源など
12 月	へびの本	巳年
	「本と会おう！」 本の紹介カードと本	中 1 総合
	ボードゲーム	リブラリアクリスマスの企画に関連して
2025 年 1 月	図書委員 オススメ本&POP②	
	いわむらかずおさん追悼	
3 月	曾野綾子さん追悼	
	図書委員オススメ本&POP③	

企画・イベント 20件

時期	行事・企画内容（ ）内は参加者
5月	有志探究クラブ「アカデミカ」第1回「興味あるテーマを考える」(12名、教職員3名)
	第1回 図書館クイズ (11名)
6月	有志探究クラブ「アカデミカ」第2回「自分の言葉で語る」 (10名)
	小4・小5体験入学 (18名、ボランティア生徒3名、教職員3名)
	第1回 清教幼稚園リブラリア探検 (参加21名、ボランティア生徒18名)
7月	第2回 図書館クイズ (9名)
	有志探究クラブ「アカデミカ」第3回「トピックで討論」 (8名、教職員2名)
9月	SGフェス 現高校1年の中学3年時の卒業論文展示、総合学習の作品展示、図書館の様子スライドショー
	第3回 図書館クイズ (10名)
10月	第2回 清教幼稚園リブラリア探検 (子ども22、大人15名、生徒ボランティア10名)
10・11月	書庫(スタディホール)の書架増設
11月	第4回 図書館クイズ (6名)
	河内長野図書館の電子図書館利用開始
12月	有志探究クラブ「アカデミカ」第4回「卒業生喜田さんを囲んで」(進路選択について他)
	第5回 図書館クイズ (11名)
	宗教部・リブラリア クリスマス会(詳細は後述)第II部(外部講師1名)
2月	有志探究クラブ「アカデミカ」第5回「卒業生喜田さんを囲んで2」
	第4回 図書館クイズ (11名)
	第3回 清教幼稚園リブラリア探検 (子ども13名、大人10名、ボランティア生徒12名)
3月	蔵書点検及び本棚整備、書庫の書架増設、除籍本の検討と譲渡

宗教部・リブラリア共催「クリスマス会」

スタディホールにおいて、宗教部・リブラリア共催の「クリスマス会」を行いました。第1部は、聖書科羽島先生のお話に続き、有志生徒によるのど自慢大会を開催。初参加の生徒だけでなく、前年度以前からのリピーターや先生・生徒の混合グループなどもあり盛況でした。第2部はストーリーテリング「ボタンインコ」の後、ボードゲーム大会を実施。図書館でのボードゲーム活用の第一人者、司書の高倉暁大氏をお招きし、大いに盛り上がりました。高倉氏は沢山の種類のボードゲームをご持参の上、ファシリテートしてくださったので、生徒たちは初めてプレイするゲームもすぐに楽しめているようでした。緊張はすぐにほぐれ、時間いっぱいゲームを満喫しました。

デジタルサイネージの活用

2020年よりデジタルサイネージ(電子掲示板)を、図書館出入口2か所に設置しています。イベント案内や新着図書情報、図書委員や先生方のおすすめ本を写真と動画で発信し続け、2024年度は約170画面を作成。サイネージを見て本を借りに来る生徒や教職員も増え、広報として広く活用しています。ただ、使用機器が現在生産中止の機器であり、保守点検等のサービスもなく、動作対応するWebブラウザも古くなってきたため、これからの運用に課題があります。

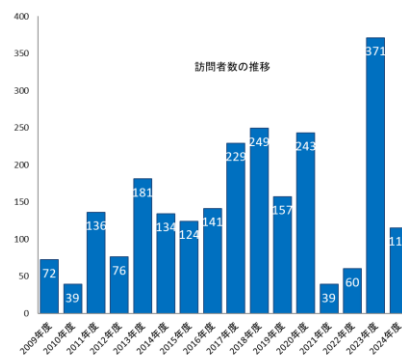






訪問者 70 件 116 名

2024 年度のリブラリアへの訪問者は 70 件 116 名でした。新型コロナウイルス感染症に起因する出張控え状況が落ち着き、またスタッフによる各地でのセミナー登壇の影響もありそうです。授業見学を希望される他校の先生、とりわけ図書館担当だけでなく、教科所属で探究学習を担当されている先生も多く見学に来られるようになりました。このうち 43 名は、3 月の中高合同「探究 fes.」参加者数です。累計訪問者数は 2324 名となりました。



	日付	人数	所属	代表者氏名 (敬称略)	訪問目的
1	4月22日	1	官公学生服		生徒からの手紙へのお礼
2	4月24日	2	大阪府立和泉高等学校		図書館見学・探究学習視察
3	5月2日	1	(株)紀伊國屋書店		図書館見学・打ち合わせ
4	6月24日	1	藤木新生法律事務所(卒業生)		図書館見学
5	7月22日	26	大東市立深野中学校		図書館見学・探究学習視察 清教学園での教員研修実施
6	7月24日	2	トモノカイ		図書館見学・探究学習視察
7	10月7日	2	(株)InspireHigh		図書館見学・探究学習視察
8	10月21日	1	(株)スタディラボ		図書館見学・探究学習視察
9	10月24日	1	新潟明訓中・高等学校		図書館見学・探究学習視察
10	11月11日	1	ハワイアン航空		生徒へのインタビュー
11	11月19日	2	富田林市立小金台小学校		図書館見学・探究学習視察
12	11月27日	1	(株)教育と探求社		図書館見学・探究学習視察
13	11月27日	1	大阪偕星学園高等学校		図書館見学・探究学習視察
14	12月12日	1	鹿児島高等学校		図書館見学・探究学習視察
15	1月9日	1	川西市立明峰中学校		図書館見学・探究学習視察
16	1月15日	1	(株)ネットアドバンス		図書館見学・打ち合わせ
16	1月16日	1	関西学院大学		図書館見学・探究学習視察
17	1月21日	2	新潟県立新津高等学校		図書館見学・探究学習視察
18	2月6日	2	羽衣学園中・高等学校		図書館見学・探究学習視察
19	2月18日	5	東京学芸大学教職大学院		図書館見学・探究学習視察
20	2月18日	1	武蔵野市立境南小学校		図書館見学・探究学習視察
21	2月21日	1	東福岡高等学校		図書館見学・探究学習視察
22	2月21日	3	三田学園中・高等学校		図書館見学・探究学習視察
23	3月5日	3	神戸大学付属中等教育学校		図書館見学・探究学習視察
24	3月8日	1	大阪キリスト教短期大学		中高合同「探究 fes.」見学
25	3月8日	1	学校法人 OCC 理事長		中高合同「探究 fes.」見学
26	3月8日	1	大阪府議会議員		中高合同「探究 fes.」見学
27	3月8日	1	文教大学国際学部国際理解学科教授		中高合同「探究 fes.」見学
28	3月8日	1	(株)ワイズコンサルティング		中高合同「探究 fes.」見学
29	3月8日	1	東京農工大学 准教授		中高合同「探究 fes.」見学
30	3月8日	1	学校法人清教学園 元理事長		中高合同「探究 fes.」見学
31	3月8日	1	大阪公立大学 現代システム科学域 客員研究員		中高合同「探究 fes.」見学
32	3月8日	1	学校法人清教学園 理事		中高合同「探究 fes.」見学
33	3月8日	1	河内長野市長		中高合同「探究 fes.」見学
34	3月8日	1	名古屋学院大学経済学部 准教授		中高合同「探究 fes.」見学
35	3月8日	1	関西大学 名誉教授		中高合同「探究 fes.」見学
36	3月8日	1	読売新聞 編集委員		中高合同「探究 fes.」見学
37	3月8日	1	兵庫県立西宮南高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
38	3月8日	1	埼玉県久喜市立久喜中学校		中高合同「探究 fes.」見学
39	3月8日	1	清風南海中学校・高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
40	3月8日	1	近畿大学ビブリオシアター		中高合同「探究 fes.」見学
41	3月8日	1	関西大倉学園		中高合同「探究 fes.」見学
42	3月8日	1	清風南海高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
43	3月8日	1	清風南海学園		中高合同「探究 fes.」見学
44	3月8日	1	新潟明訓中学校・高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
45	3月8日	1	川口市立高等学校		中高合同「探究 fes.」見学

46	3月8日	1	兵庫県立飾磨工業高等学校多部制		中高合同「探究 fes.」見学
47	3月8日	1	育英西中学校・高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
48	3月8日	1	大阪府立東高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
49	3月8日	1	三田学園中学高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
50	3月8日	1	清風南海学園中学校・高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
51	3月8日	1	京都市立日吉ヶ丘高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
52	3月8日	1	摂南大学		中高合同「探究 fes.」見学
53	3月8日	1	追手門学院中学高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
54	3月8日	1	堺市立鳳中学校		中高合同「探究 fes.」見学
55	3月8日	1	無所属		中高合同「探究 fes.」見学
56	3月8日	1	堺市立浜寺小学校		中高合同「探究 fes.」見学
57	3月8日	1	自修館中等教育学校		中高合同「探究 fes.」見学
58	3月8日	1	あすなろ高等専修学校		中高合同「探究 fes.」見学
59	3月8日	1	京都府立木津高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
60	3月8日	1	立命館大学		中高合同「探究 fes.」見学
61	3月8日	1	近畿大学附属高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
62	3月8日	1	O K C 株式会社		中高合同「探究 fes.」見学
63	3月8日	1	O K C 株式会社		中高合同「探究 fes.」見学
64	3月8日	1	大阪府立鳳高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
65	3月8日	1	神戸大学附属中等教育学校		中高合同「探究 fes.」見学
66	3月8日	1	羽衣学園高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
67	3月11日	8	帝塚山中学校高等学校		図書館見学・探究学習視察 清教学園にて教員研修を実施
68	3月14日	1	ノートルダム清心女子大学(卒業生)		図書館見学・探究学習視察
69	3月17日	1	mimoid.inc(卒業生)		図書館見学・学校訪問

大東市立深野中学校が教員研修をリブラリアで実施(7月22日)

新指導要領の全面実施に伴い、学校図書館経営だけでなく、各学校からの探究学習指導に関する問い合わせ・学校訪問が増えています。そうした中、大阪の大東市立深野中学校が、夏の教員研修の場として清教学園を選んでくださいました。「自由なテーマ設定でどのようにして探究学習を行うか」「図書館との連携」「どうやって中学生が論文を書くのか」「少人数の担当で150名の論文指導ができるのか」など様々な質問が。片岡・山崎・南からの報告とワークショップ、卒業論文を書いた生徒に経験を語ってもらうなど、充実した研修を目指しました。

各校が探究学習のカリキュラムづくりを加速させる中、学校図書館を使い、自由なテーマで生徒が論文を書く、清教学園図書館のような取り組みは多くはありません。学外からのセミナー登壇依頼も、学校図書館関係から授業担当者へと、依頼元が変化してきました。探究学習への機運の高まりを受け、今後こうした教員研修会やセミナー登壇の需要が見込まれます。



研修参加 8 件（開催日・主催者「研修テーマ」講演者、会場〔参加者〕）

- ・6月12日（水）大阪私立中学校・高等学校図書館研究会 令和5年度総会および増山実氏講演会〔山根〕
- ・6月28日（金）大阪府立中央図書館 国際児童文学館「講演と新刊紹介 2023 年に出版された本」オンライン〔山根〕〔上河〕〔南〕
- ・8月30日（金）第475回機振協セミナー「雑誌の図書館 大宅壮一文庫と記事検索システム「Web OYA-bunko」：民衆のライブラリーをめざして」オンライン〔山根〕
- ・11月29日（金）ドルトン東京学園見学〔山崎〕〔南〕
- ・11月30日（土）「学校図書館の可能性」宮澤優子氏（伊勢市教育委員会事務局社会教育課子ども読書活性化担当主幹）講演会〔上河〕
- ・12月12日（木）大阪私立中学・高等学校研究会 冬の研修会「本を読まない時代の学校図書館」・プール学院中学校・高等学校 安福朗校長講演会〔山根〕
- ・1月29日（水）豊田恭子氏（東京農業大学 学術情報課程 教授）「大統領図書館から見るアメリカ」オンライン〔山根〕
- ・3月7日（金）鎌倉幸子氏「図書館活動を価値につなげる、価値を伝える」 オンライン〔山根〕

寄稿依頼 8 件（発行日/著者「タイトル」掲載メディア〔担当〕）

- ・2024 年 6 月 片岡則夫「新時代の図書館 安城市アンフォーレはシビックプライドの種を蒔く」『図書館の学校』2024 年夏号〔片岡〕
- ・2024 年 9 月 樹村房『これからの高校教育とラーニングコモンズ』一部を執筆担当〔山崎〕
- ・2024 年 9 月 片岡則夫「県立長野図書館「信州・学び創造ラボ」が拓く共知・共創の可能性」『図書館の学校』2024 年秋号〔片岡〕
- ・2024 年 10 月 教育学系学会誌 掲載論文 査読担当〔山崎〕
- ・2024 年 12 月 片岡則夫「“おっちゃん”がつくる、子どものサードプレイス 北勝堂 暮らしとともにある図書館 念々堂」『図書館の学校』2024 年冬号〔片岡〕
- ・2024 年 3 月 片岡則夫「学校図書館こそ『学校の心臓』：中央大学附属中学校・高等学校」『図書館の学校』2024 年春号〔片岡〕
- ・2024 年 3 月 山形県教育委員会司書部会機関誌『らいぶらりあん 58 号』「Question 1：『1949 年』の探究学習のナゾ」〔山崎〕
- ・2025 年 2 月 片岡則夫「マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの？（中国語版）」聯合天際（北京）文化傳媒有限公司 Q 文庫

*2021 年に筑摩書房から出版された『マイテーマの探し方』の中国語版が、中国国内で出版されました



学外講演登壇等 31 件 / 参加者 1591 名（開催日・主催者「講座テーマ」会場、参加数 [担当]）

- ・5月8日(水)足立区区中学校教育研究会「学校図書館のさらなる活用と教職員の意識の向上」西新井文化ホール、700名[片岡]
- ・5月17日(金)大東市立中学校教員有志探究学習研究会「『論文とかマジで書ける気せーへんねんけど』：わたしの言葉で語る、作文実践 はじめの一步」大東市立東中学校、8名[山崎]
- ・5月17日(金)昭島市図書館 図書館総合展地域フォーラム[ミニ調べる学習演習] アキシマエンス、29名[片岡]
- ・6月9日(日)海老名市立図書館「図書館でハカセを目指そう」海老名市立有馬図書館、18名[片岡]
- ・6月11日(火)文京区家庭教育講座「親子で楽しい！『自由研究』の進め方」文京区、60名[片岡]
- ・6月12日(水)図書館流通センター「TRC研修ミニ調べる学習」小石川図書館、10名[片岡]
- ・7月7日(日)戸田市立図書館「君も調べものマスター」戸田市立図書館、10名[片岡]
- ・7月15日(月)泉大津市立図書館「調べる学習コンクール第一歩」泉大津市立図書館、9名[片岡]
- ・7月22日(月)大東市立深野中学校「大東市立深野中学校夏季教員研修会」清教学園図書館、30名[山崎][片岡][南]
- ・7月29日(月)熊取町立図書館 調べ学習応援講座、15名[南][上河][片岡]
- ・8月3日(土)座間市立図書館「夏休み自由研究応援講座」座間市立図書館、8名[片岡]
- ・8月6日(火)芦屋市図書館「じぶんで調べるっておもしろい」芦屋市立図書館本館、20名[片岡]
- ・8月9日(金)大阪大学 探究学習指導者セミナー「『いいこと思いついた！』が生まれる教室の作り方」大阪大学箕面キャンパス、30名[山崎]
- ・8月17日(土)熊取町立図書館 調べ学習応援講座、30名[南][上河][片岡]
- ・8月20日(火)神奈川県 SLA 大和市「教科で、総合でできる探究学習・調べる学習のはじめかた：読みたい本があればだれでも楽しい情報発信」リモート、140名[片岡]
- ・8月23日(金)大和郡山市教育委員会学校司書・司書教諭向け研修「みんなで調べる学習講座」大和郡山市図書館、25名[片岡]
- ・8月24日(土)座間市立図書館「夏休み自由研究応援講座 発表会」座間市立図書館、29名[片岡]
- ・8月27日(火)荒川区 小中学校司書教諭・学校司書夏季研修会「どうする？ 探究学習・調べる学習一ご質問に答える2時間」ゆいの森あらかわ、70名[片岡]
- ・8月29日金守口市立金田小学校研修会ワークショップ「探究学習を語る」金田小学校、20名[片岡]
- ・9月3日(火)大阪市令和6年度大阪子ども読書活動推進連絡会大阪市立図書館、78名[片岡]
- ・9月13日(金)国立大学図書館協会「研修会新入生の迎え方：高大接続の現状から大学図書館の取り組みを再考する」「学校図書館を使う、テーマ自由の探究学習・卒業論文支援」大阪大学豊中キャンパス、40名+オンライン参加[山崎]
- ・9月20日(金)図書館総合展フォーラム「ミニ調べる学習演習」（一般対象）行橋図書館、42名[片岡]
- ・11月11日(月)TRC 館長候補講義「コンクールと探究学習」本社、12名[片岡]
- ・11月13日(水)阪南市立図書館 「ミニ調べる学習」（司書対象）阪南市立図書館、9名[片岡]
- ・11月15日(金)山形県教育委員会 探究学習研修会「生徒が「いいテーマ」を思いつく探究授業の作り方」山形県教育センター、52名+オンライン参加[山崎][上河]
- ・11月21日(木)大阪府立東高校 令和6年度「総合的な探究の時間」中間発表会講評委員 [片岡][山崎][南]
- ・11月22日(金)愛知県知多地区学校図書館研究会「探究学習には図書館が必要だ：興味と本があればどこにでも行ける」半田高校、17名[片岡]
- ・11月30日(土)「第28回図書館を使った調べる学習コンクール」審査 [片岡][山崎][南]

・12月7日(土)小学館グループ ネットアドバンス 探究学習セミナー「『自己の在り方生き方』を考えながら学ぶとはどういうことか」関西大学梅田キャンパス、40名+オンライン配信[山崎]

*当日の様子が一般公開されています。

→https://school.japanknowledge.com/case/movie_20241207seminar.html



- ・12月13日(金)南河内地区教育研究会図書館部会「どうする調べる学習？：学校図書館が多様な探究の鍵」藤井寺中学校、25名[片岡]
- ・3月26日(水)東大阪市教育委員会「東大阪市デジタル博物館を活用した調べる学習体験講座」東大阪役所、15名[片岡]

VI 課題

高校の探究学習カリキュラム再検討に向けて

高校生の探究学習と進路選択が結びつくような、カリキュラムの構築を検討すべきです。これまで18年間を通じて、個々の生徒が興味を学び、図書館を活用して論文執筆を書いてきたリブラリアの探究学習。一方、全国各地でリブラリアと似た実践を試みる学校が増えてきており、多くの学校で図書館活用には至らないものの、学外人材(大学院生によるTAや大学教員の指導)との連携は一般化し始めました。こうした動きは、探究学習と進路を結び付ける昨今の教育状況を反映しています。

清教学園でも、中学卒業論文の活発な利用や、進路との繋がりと比較して、高校での利用状況の伸び悩みは長年の課題でした。依然としてどこにも真似できていない「なんでも学べる学校図書館」を、高校でもさらに活用できれば、それは今後の清教学園の大きな強みとなります。また、個々の生徒が自由にテーマを決めて学ぶような体制があれば、進路選択にも影響するでしょう。150名の論文指導を2名体制担う中学卒論の実践を、高校でも実施できないか。学内でのそんな機運も高まっています。

【継続課題】配架スペースの不足を補う書架の増設

長らく配架スペースの不足に悩まされているリブラリア。古い資料の廃棄や、館内の隙間スペースに書架を増築するなどその場しのぎの対応をしてきましたが、依然として抜本的な解決には至っていません。その状況は以前より事業報告で報告してきた通りです。

2025年3月末時点で、リブラリアの資料数は80,475点。統計を取り始めた17年前と比較して、フロア面積を変えず蔵書数は約4倍に。全国屈指の利用状況に加え、多様な図書館サービスが功を奏し、近年は高校生の利用も増加(p.10参照)。その利用実態に合わせた改築が今すぐ必要です。



新書は前後2段で配架。書架に入りきらない資料は平積み状態



天井まで資料を配置。資料を手にとれない・選べない・危ない



2023年3月の図書館2Fの様子。仮置き状態の書庫

【継続課題】スタッフ減によるサービス困難

スタッフが部署外業務に割り当てられるケースが増え続け、人員の加配も無い状態が続いています。充実した図書館サービスの継続が困難になりつつあります。分掌や学年団所属などが最たるものです。カウンター対応はもちろん、対面・遠隔での本の相談、読書推進活動、授業のサポート、選書・受け入れ・整備、学内学外に向けた広報活動や研究事業など運営に必要な仕事は多岐に渡り、これらに専念できる環境によって、全国屈指の探究学習実践と、学校図書館経営が実現できていました。しかし、現在は学年団その他部署に常に人手が取られ、館を円滑に運営し、利用者(生徒・教職員)に十分なサービスを提供するための機能が損なわれています。他の学校教員の仕事と図書館経営を分け、専科スタッフとしての適切な人員配置を求めます。

職種	勤務日数・時間	業務内容	
専任司書	週5/ 8時-18時	図書館基幹業務	- 貸出返却 - レファレンス - 選書/受入/登録 - 授業支援 - 図書委員運営 - 企画/広報
非常勤司書	週5/ 8時-18時	図書館基幹業務	
非常勤司書	週3/ 9時-15時	図書館基幹業務	
職種	勤務日数・時間	業務内容	
専任司書教諭	週5/ 8時-18時	探究学習指導 図書館基幹業務	- 授業計画/指導/評価 - 貸出返却 - レファレンス - 他教科授業支援 - 企画/広報
専任司書教諭	週5/ 8時-18時	探究学習指導 図書館基幹業務	
非常勤講師	週1/ 8時-18時	探究学習指導	

中高生読数/約1800名
 一人当たり年間貸出冊数
 中学=42.7冊 高校=8.1冊
 採集あたりの図書利用率
 週3コマ中34コマ=94.4%

学年団業務
 学級運営
 行事・イベント

VII 清教学園図書館リブラリアの歩み 2002～2024

年度	主なできごと
2002 年 (平成 14 年)	・現在地に図書館が移転。天井の高いホールを区切り、1 階に図書館、2 階に 120 席のスタディホールが生まれる。同時に、それまで図書館であった教室が、総合学習室としてリニューアル。
2007 年 (平成 19 年)	・専任司書教諭着任、探究科創設・専任教諭着任 ・事業報告の刊行・統計資料の充実開始 ・総合学習等で年間約 400 時間の利用 ・図書の廃棄基準を定め、1176 点を除籍
2008 年 (平成 20 年)	・蔵書管理に「ライブマックス」、書誌情報のために「Tool-S」を導入 ・レファレンス資料用の低書架を増設、スタディホールに書庫増設 ・レファレンス低書架を増設、文庫棚・ビデオ棚・傾斜棚を導入 ・生徒用検索端末 2 台を設置 ・貸出点数を 2 点から 5 点に増加
2009 年 (平成 21 年)	・貸出点数 32278 点、2006 年度と比較しておよそ 10 倍弱 ・年度当初のオリエーション開始 ・貸出点数を 5 点から 10 点に増加 ・図書購入の見計らい開始 ・雑誌棚を新設、L 型低書架スタディホールに導入、総合学習室文具棚を改造 ・第 13 回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣奨励賞・活字文化推進会議賞を受賞
2010 年 (平成 22 年)	・大阪府下貸出点数一位を記録 ・貸出点数を 10 点から 20 点に増加 ・第 14 回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣賞・日本児童図書出版協会賞を受賞 ・「NRI 学生小論文コンテスト 2010」にて探究科論文が大賞受賞
2011 年 (平成 23 年)	・清教学園 60 周年記念事業「『探究的な学習』が賜物を生かす」開催 ・文部科学省「読書活動優秀実践校」表彰
2012 年 (平成 24 年)	・貸出点数が増加、4 万点を突破 ・「がんばった学校支援事業」補助金交付 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」受賞 ・読売新聞「教育ルネサンス」（全国版）掲載 ・中学新入生向けの「すくど文庫」はじまる
2013 年 (平成 25 年)	・文部科学省委託助成研究が終了 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる』少年写真新聞社より出版 ・国際子ども図書館「調べものの部屋プロジェクト」への参加
2014 年 (平成 26 年)	・第 44 回「学校図書館賞」大賞を受賞 ・図書館振興財団の助成決定：デジタルアーカイブ化はじまる ・スタディホールに書架を増設：収納量 3000 点増 ・学級文庫「すくどの本」を中学各教室に設置：「すくど文庫」3000 点が読まれる
2015 年 (平成 27 年)	・第 9 回高橋松之助記念「朝の読書大賞」を受賞 ・生徒作品のデジタルアーカイブ化が実現 ・第 17 回図書館総合展にブース出展 ・国会図書館「レファレンス協同データベース」に参加 ・ツイッターによる情報発信を開始

2016 年 (平成 28 年)	・ポスターセッションによる中学卒業研究発表会を開催 ・ラーニングコモンズ開室 ・「本をつなげるプロジェクト」はじまる ・リブラリア書架・総合的学習室ロッカーを各種賞金で増設 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」9 年連続入賞 ・教育課程の変更により探究科終了
2017 年 (平成 29 年)	・リブラリア訪問者数累計 1100 名を突破 ・清教学園幼稚園生による「リブラリア探検」開始 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる 2』少年写真新聞社より出版 ・ラーニングコモンズ本格稼働 利用者約 3000 名 ・有志探究活動「清教アカデミカ」はじまる ・統計グラフコンクールに初入賞
2018 年 (平成 30 年)	・訪問者新記録・累計 1300 名を突破 ・講談社現代新書『中高生からの論文入門』発刊 ・『探究科の記録 2008～2016』まとまる ・中 3 卒業研究“論文形式”に進化 ・私学教育研究所委託研究決定
2019 年 (令和元年)	・新型コロナウイルスの影響甚大：3 月休館・卒業論文発表会中止 ・私学教育研究所委託研究実施 ・小学生向け「夏休み調べ学習教室」初の開催
2020 年 (令和 2 年)	・10 年来の課題「蔵書スペースの限界」：総合的学習室の図書館化を提案 ・文部科学省の学校図書館事例集に Web 公開される ・コロナ禍とリブラリア：開館日数減少の中で工夫続く ①WebOPAC 構築と予約サービス開始 ②トークライブ & 動画配信企画 ③全国の県立・私立の学校図書館との連携行事「ほんトーク」中学編、高校編開催 ・図書館総合展オンラインに出展。来場者 200 名以上を越える
2021 年 (令和 3 年)	・貸出点数回復：清教中は公立中の 5.6 倍 ・卒業論文「なんでやねん」の授業から『マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの』生まれる ・文科省「令和 3 年度学校図書館の活性化に向けた調査研究」事業実施校として指定・研究・報告 ・全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」、学図研ニュースに掲載 ・図書館の配架は飽和状態一層深刻化
2022 年 (令和 4 年)	・清教学園リブラリアが「Library of the Year 2022」の第二次選考対象に ・高校生への資料支援が放送大学の映像授業教材に ・卒業論文研究発表会（中学）4 年ぶりの対面発表会を実施
2023 年 (令和 5 年)	・「図書館総合展 2023」出展、来場者数 251 件を達成 ・高校生年間貸出点数が好調、生徒 1 人当たり 8.1 冊に ・アカデミカ生徒の論文が「調べる学習コンクール」優秀賞・読売新聞社賞 ・中学総合学習「はじめての探究学習」単元で「第 3 回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞 ・訪問者 35 件 371 名の新記録・累計 2000 名突破
2024 年 (令和 6 年)	・中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催 ・高校生一人当たりの年間貸出がついに 10 冊を越える ・さん（高 2A）が探究論文で優秀賞・読売新聞社賞 ・有志活動「清教アカデミカ」発足 7 年目。多様な進路への道拓く ・企画「探究大全」はじまる

「探究大全」について

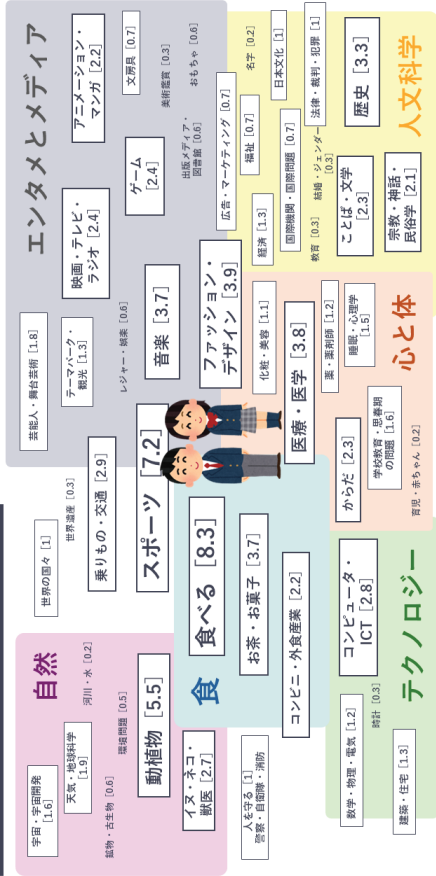
「中学生はどんなことに興味を持っているのか」に答える

清教学園プラリアではこれまで『なんでも学べる学校図書館¹⁾』などで、「探究学習で生徒たちは何を学んできたのか」「どんな本を提供したらいいのか」という問いに答えてきました。この本のもとになったデータは、2007 年からの 6 年間、約 1300 人分でした。

一方、清教学園の探究学習は現在、「卒業論文などでやねん」という名称となり、18 年目を迎えています。参加生徒の累計も 3328 名と倍以上になっています。そうした中、データの分類項目の見直し作業を進め、大げかみに生徒の興味を把握するための作業が続けてきました。今回、その作業が一区切りして「中学生はどんなことに興味を持っているのか」という問いに答える資料が生まれました（一部リストを p.3 に掲載）。この資料を基に次に示す「中学生の興味の全体像」の図が作られ、さらにその各項目について分析が加えられるようになります（分野「ゲーム」に関してはすでに公開しています）。私たち清教学園探究科は、こうした作業を「探究学習大全」として、順次公開する予定です。

中学生の興味の全体像

©清教学園探究科 不刊複製
2024年10月1日版



¹⁾ 片岡明夫編著「なんでも学べる学校図書館」をつくる：ブツカカログデータ集」（第1巻 2013 年、第2巻 2017 年、ともに少年写真新聞社刊）

ちなみに、清教学園の探究学習の授業は、個々の生徒の興味の起点としています。自ら課題を見つけ自ら学ぶ、シンプルな自由研究です。大人は生徒のテーマ設定の先回りをしません。

なぜこうした「探究学習大全」が必要なのでしょう。それはこの試みが、探究学習の支援や図書館の蔵書構築のための基礎的な資料として有益だからです。具体的には子どもがひとり、あるいは支援者（教師・学校司書・司書・保護者等）と、こうした図を見たり分析を読んだりして、自ら課題見つけ自ら学ぶヒントを得るのです。あるいは、学校図書館や公共図書館のみなさんが、ノンフィクションの蔵書をよりよいものにするための手引きとして活用できます。

「中学生の興味の全体像」の発見

さて、上記の「中学生の興味の全体像」の図について解説します。中央部に「食べる [8.3]」とあります。これは「これまで探究学習に参加した 3319 人のうち、約 8.3%の生徒が食べることに関係する作品を残した」という意味です。「スポーツ [7.2]」「動植物 [5.5]」「音楽 [3.7]」などが人気なのは、中学生ならいかにもそうであろうと思われれます。ちなみにこの図の 1%を実際の数にすれば、約 33 名が学んでいる事を意味しています。スポーツはこれまでに約 273 名が学んだとわかります。

「学校教育・思春期の問題」「お茶・お菓子」「宗教・神話・民俗学」など、項目名についてやや強引な感じを受けるかもしれません。実際、生徒の研究内容をどんな概念でまとめるか——たとえば「チョコレート」を独立させるのか、「菓子」とするのか、「食べる」に含めるのか——によって、項目名やその順位は変動します。そこで、今回は分類原理や用語の厳密さではなく、生徒や教室での使い勝手を優先して項目名を考えました。ここで言う「使い勝手を優先する」とは、「項目名を生徒の言葉に寄せる」を意味しています。つまり、「なにを研究する？ なにに興味があるの？」と生徒に質問したときに、はじめに発せられる言葉を思い浮かべ、項目名にしたというわけです。たとえば「ゲーム」「ファッション」「アニメ」「お菓子」…と、ごくざっくりしたもの、言いようを生徒はしがちです。そうとなれば、支援する側は「ゲームのなに？」「ファッションのなに？」「アニメのなに？」という問いを続けるに決まっています。こうした場面で、この図を生徒に見せれば、「ゲームのどんなことを学べばいいのかの手がかり」がすぐに得られるのです。また、題材の相性から、たとえば「紅茶や日本茶と甘いものは併せて考えよう」というわけで、「お茶・お菓子」という項目をつくっていいです。さらに、ある程度の数のまとまりがあれば、その分野を概観できる図にしやすい、という理由もあります。

今回の「探究学習大全」が想定する学習者は、中学生・高校生の両方です。清教学園は中高一貫校であり、図書館を使う探究学習の授業が、中高の両方で行われているのが理由です。しかし、探究学習大全の内容が中高生にしか使えないかと言え、そうでもありません。「子ども」という意味では小学生の調べる学習にも対応できますし、「研究」という側面に注目すれば大学生の指導にも使えるかもしれません。目の前の児童・生徒・学生や、図書館利用者に応じて、有効に活用して頂ければと思います。ただし、数的なデータ分析は中学生 3328 名のデータをもとにしています。これに加えて、実際に生徒が考えた研究テーマや、研究の過程でのエピソードも交えて紹介します。

いまの中学生はどんな世界に生きている？

「中学生の興味の全体像」を見渡すと、そこにもグループが浮かび上がってきます。「食」「自然」「テクノロジー」「エンタメ・メディア」「体と心」「人文科学」「スポーツ」です。これもまた、主観的でほんやりしたまとまりとはいえ、ここからは現在の中学生の関心のありようが分かります。つまり、中学生は「食べる」とエンタメと部活動を中心に、同時に心や体を気にかけながら、生きている」そんな傾向が見て取れます。失礼な言い方をすれば“単近なことばかり”に興味がある、ともいえなくもないです。とはいえ、生徒にとってやりがいのある研究はそこから始まりますし、そこから育った研究だからこそ難しい論文を書きぬく元気も出るのです。

ところで、この図の中には「食べる」を筆頭に1%以上の大きなグループが33あります。それらの累計が86%ですから、この33の大グループを全て解説してしまえば、生徒全体の9割弱をカバーできる計算になります。したがってこれからの「探究学習大全」は、まずは以下の表に示す33グループの分析を優先します。中学生に人気のある、つまりの本の需要があるところから攻めよう、という作戦です。

順位	項目名 学習件名 (大分類)	人数	%
1	食べる	279	8.4
2	スポーツ	242	7.3
3	動植物	186	5.6
4	ファッション・デザイン	132	4.0
5	医療・医学	129	3.9
6	お茶・お菓子	125	3.8
7	音楽	124	3.7
8	歴史	111	3.3
9	乗りもの・交通	97	2.9
10	コンピュータ・ICT	95	2.9
11	イヌ・ネコ・獣医	92	2.8
12	ゲーム	81	2.4
13	映画・テレビ・ラジオ	80	2.4
14	ことば・文学	78	2.4
15	からだ	77	2.3
16	コンビニ・外食産業	76	2.3
17	アニメーション・マンガ	75	2.3

順位	項目名 学習件名 (大分類)	人数	%
18	宗教・神話・民俗学	70	2.1
19	天気・地球科学	65	2.0
20	芸能人・舞台芸術	62	1.9
21	宇宙・宇宙開発	56	1.7
22	学校教育・思春期の問題	54	1.6
23	睡眠・心理学	50	1.5
24	経済	46	1.4
25	建築・住宅	44	1.3
26	テーマパーク・観光	44	1.3
27	薬・薬剤師	41	1.2
28	数学・物理・電気	41	1.2
29	化粧・美容	38	1.1
30	日本文化	35	1.1
31	世界の国々	35	1.1
32	人を守る	34	1.0
33	法律・裁判・犯罪	34	1.0
		2794	85.3

清教学園卒業研究 学習件名新ランキング上位 33 位まで(2007-2023)

探究学習が示す豊かな学びの世界

では、ここまで見てきたような探究学習の授業、「個々の生徒の興味の起点とし、自ら課題を見つけて自ら学ぶ、シンプルな自由研究」とは、どのような学びの世界なのでしょう。たしかに、生徒が選ぶのは“単近な”題材です。「そんな身の回りを学習して何の役に立つのか？ もっと学ぶべきコトがあるはずだ」という見方もできるでしょう。一方で、この探究学習に携わる教員は、(心の内では「それが何の役に立つの?」)と思うことがしばしばありますが彼らが選んだテーマを否定しません。なぜなら、この授業が大切にしているのは、「興味にもとづく学びの道のり」それ自体だからです。

自身の興味を学ぶ道のり、その何がいいのか。ひとことで言えば世界が広がります。たとえば大人にとっては身近に思える分野でも、専門家が書いた本を読み、著者に会って話を聞き、調査をする中で、生徒は「言葉」を手に入れます。読んで、聞いて、考えて、相手に伝わるように書く。これら一連の学習のすべてに「言葉」が関わります。こうして手に入れた豊かな言葉が、世界への扉を開けます。本や人の対話など、自分の傍らにある世界への扉は、開いてみると意外と広いのです。しかも、言葉や知識は当然複雑に繋がります。そのことに気が付き、彼らはさらに豊かな知の世界に漕ぎ出していくのです。

自由な探究学習が人生に影響を及ぼす場合も少なくありません。例えばフィールドワークを通じて知らない大人に教えるを請う経験。「あなたの本を読んで考えた。さらにこんな疑問が浮かんだ」と、取材を依頼します。依頼や緊張のインタビューは生涯忘れえぬ経験となります。質問する側だと思っていたら、逆に大学の先生に鋭い質問で返され、同じ分野を志す者として対等に語り合えた、そんなこともあります。その経験が学部学科選択の指針となる例は数多いです。直接進路に影響せずとも、人生の重要な出来事として文脈づけるケースも。探究学習は自分の人生を自分らしく生きさせる指針となるのです。

このような探究学習を指しても、それでも「自己完結的な学習だ」とする批判もあります。ふりかえって、グループの生徒が協働して対話的に社会課題の解決策を考えるようなスタイルをとる探究学習も多くあります。個人で学ぶのか、協働で学ぶのか。生徒が興味を学ぶのか、SDGs のような社会課題を教員が生徒に与えて方向づけるのか。このような議論は、探究学習の授業設計を巡る言説の中でよくなされます。

では、興味を学ぶ探究学習を、生徒はどう振り返ったでしょうか。中学から高校にかけて4年もの間、先住民の主権を考え続けた生徒がいました。彼は自身の論文の「おわりに」に、こんなことを書きました。

私の研究の原動力は「楽しさ」だった。好きだったハワイに関する本を図書館で楽しく読み、様々な研究テーマが生まれた。参考文献の著者に会って楽しく語らった。自分の論を読者に理解してもらえるよう何度も文章表現を検討した。そして、何よりも嬉しかったことは、読者に自分の論が伝わり、それに対して反応を頂いたことだった。誰かの心を、私の論文が動かしたのだ。探究活動は自分の興味を深めるだけでなく、様々な出会いがある。だからこそ「探究」はやめられないのである。

この生徒が特別なのではありません。授業アンケートでは「授業を（後輩や自分の子どもに）勧めたいか」という問いに対し、例年8割程度の生徒が肯定的に回答しています。研究がそれほどうまくいかなかった生徒ですら、こう答えます。興味を学ぶという、一見して自己完結的な行為がむしろ、世界に関与し、他者と繋がり、さらに新しい自分の発見へと繋がる…。こうしたこの授業のよさは、子どもたちにも感じられています。興味を礎にした探究学習は、対話的で相互的な豊かな経験をもたらすのです。

【主題の傾向とランキンング:産業・作品・制作そして依存】

さて、ゲームを題材とした生徒達は一体どのようなことを具体的に学んだのでしょうか。小分類の上位のランキンングを右表に、示します。

ランキンングの1位がポケットモンスターです。2015年に初めて研究の題材に挙がってから、例年現れます。以下、ゲーム機・ゲーム依存・ゲーム音楽・e-sports・任天堂・ソニー・ジャルゲームなどが続きます。

73名の作品を大まかに分類すると、トピックは大まかにゲーム産業・ゲーム作品・ゲーム制作それにゲーム依存の4分野に分けられます。ちなみに今回の分類では、ボードゲームはゲームに含まれますが、ボードカードや将棋・囲碁は別に行っています。

「ゲーム産業」では、市場分析的な題材たとえば「なぜファナルフアンタジーが売れたか」「任天堂の戦略」「ゲーム機の進歩」「e-sportsの発展」などの方向が多くみられます。こうした事

象については売上高や販売数、シェアなどが数値で明らかになるので、比較的まとまりやすいといえます。次に「ゲーム制作」に関連しては、ゲーム音楽のほか開発のためのプログラミング・ゲームデザイン、AIやCGなど内容は高度になります。のちに述べるクリエイターの側に立つ作品が多いため気合の入る作品がときに生まれます。「ゲーム作品」については、生徒の思い入れあるゲームが扱われます。場合によっては親子二代で楽しんでいるという作品もあります。ただし、作品研究を扱う生徒は少なく、漫画やアニメでよく研究されるような「ストーリーの読解」や「ゲームスタジオ・クリエイターの作家性」への言及、そこから意味を読み取ったり、解釈を試みたりする生徒は見当たりません。現在の多くの生徒にとって、プレイするゲームは対戦・協力型のオンラインタイトルであり、そもそも単一の「作品」としてゲームタイトルを分析・批評するような生徒は多くはありません。

【学びの特徴:ライトユーザーの撤退、ヘビュユーザーの深化】

男女比から見ると65.8で男子が優勢です。各種調査でも男子のゲーム時間の多さが示されているので納得できます（ちなみに女子はSNSにより多く時間を使うという調査も多いです）また、使用するハードウェアの観点からいえば、PlayStationといった専用ゲーム機(及びゲーミングPC)の利用者層と、スマホの利用者層に分かれます。

「ゲーム」を題材に探究学習をはじめると生徒は例年大変多いです。しかし他の分野でも同じことがいえませんが、単に「好き」である状態と、「研究ができるほどの興味がある」状態の間には乖離があります。「ゲームが面白くしてしかたない」「三度の飯より好き」というヘビュユーザーがいる一方で、「消去法」的に「興味のあることが他にないからゲーム」というライトユーザーも多いです。

その生徒がヘビュなのかライトなのかは、はじめはわかりません。生徒が研究企画書に書きつける言葉は一様に「ゲーム」です。ときに『モンハン（モンスターハンター）』『太鼓（太鼓の達人）』『マイクラ（Minecraft）』といった流行しているタイトルの場合もあります。そこで図書館の本を手渡して観察する中で、ゲーム研究の土俵に残れるかどうかが見えてきます。たとえば、「どれだけ読書に集中できるか」です。授業中に楽しく読む生徒はよいですが、しんどそうな子も現れます。

ライトユーザー層はしんどく研究を貫徹できない場合が多いです。しんどいなら研究をやめて、違う題材にすればよいのです。しかし「ただ好き・消去法タイプ」という生徒は、「しんどいけど、思い浮かぶ題材がゲームしかない」場合が少なくないのです。そうした子は最後まで、ごねたり揉めたりしがちです。ある生徒は、「ゲームが好きなのに、研究すると『嫌い』」自分ではゲームをテーマにはしませんが」と泣きながら語りました。別の生徒の振り返りには、「自分でテーマを決めるこの授業で、関心を探るとゲーム“しか”残らず、そのゲームですらも、実は大して好きではなかった。ただ情性で遊んでいただけだ」とありました。さらに、ゲームに対する自分の興味を深掘りできず、目に見える市場調査、統計分析で「○○のようなゲームが売れている」と平凡な記述でお茶を濁す生徒もあらわれます。

一方、ヘビュユーザータイプなら、よい研究になる可能性がそれなりにあります。その可能性を見極める観点は「分析的にゲームを見ているか」「クリエイティブの側に回ろうとしているか」です。例えば『マイクラフラフト』のように、製作者に用意されたステージが基本的には存在せず、プレイヤー自身が遊び方を考え、作っていくようなゲームを題材にする生徒は、たとえば資料を読む読解力に乏しくとも、よい論文を書く傾向にあります。具体的には、自身でゲームサマバーを立て、他のプレイヤーが楽しめるよう工夫していた生徒が、「どのようなマイクラサマバーが、参加するプレイヤーを楽しませるのか」を調査した例があります。また、「マイクラのような『自由』なゲームを苦手とするプレイヤーにはどんな特徴があるのか」を調査し、子どもが主体性を発揮できない、日本の教育制度にまで言及した例もありました。

要は、ゲームに対する様々な「こだわり」が、そのまま研究に対するこだわりにも育っていくのです。能動的にゲームの中でクリエイティブな行為に及んでいる、あるいは参画してゲームの世界に影響力を持っているような場合はこちらにも応援したくなります。制作側、供給側に回ったり、他者のゲーム利用に関心を持つようになると、しっかりと研究になる場合が多かったです。一方でコンテンツ消費の目線だけで研究を始めた生徒は、かなりの確率でゲームという主題から脱落します。

ゲーム研究を見渡すと、それなりに楽しくこだわりが見える作品はあるものの、おしなべてみれば、優れた研究が出てくる分野とはいえません。また、こだわりはあるけれど、難しい文献を読む読解力や、伝えるための語彙や筆力に欠け、空回りする生徒も多くみられます。このあたり、ゲーム時間の長ささと学力低下の相関を連想させます。また、ゲームをつきつきめれば、たとえば「ゲーミフィケーション」といった分野まで読書が広がってよいものですが、そのレベルまで行く生徒はほとんどいません。

ともあれ、彼らの口にする「ゲームが好き」「ゲームをよくやってる」という言葉の裏に、どんな状況があるのかは、生徒との対話の中で丁寧に探り、指導とレファレンスをしていきたいものです。

【フィールドワーク例:自分でやる調査を、ゲームのように楽しめるか】

生徒にとって身近な題材であるがゆえに、フィールドワークも多彩です。専門家への取材や、実験・調査などでも面白いドラマが生まれています。以下に例示します。

『モンスターハンター』（モンハン）はプレイヤーが協力してモンスターを狩り、集めた素材で武器や装備を作るゲームです。題材にした生徒は、オンラインで遊ぶユーザーのために、発売後もゲーム内容をアップデートし続ける点に注目しました。参考文献が少なく中で、「難易度調整」に関する資料を中心に学習し、さらにモンハンの過去全てのシリーズタイトルと、アップデート内容を整理し、どんな調整がゲームをどう面白くしたかを分析しました。さらに、開発会社であるカプコンのゲームクリエイターに取材依頼の手紙を送付したところ、手紙を喜んでくれたクリエイターが、彼の分析へのコメント

ト、制作意図とユーザーへの想い、ゲーム開発のおもしろさを語ってくれました。加えて、株主総会で配布している資料、ゲーム開発を経営的な目線で見える資料も送ってくれました。自分の分析に対するプロからの反応が生徒の目の色を変え、頂いた一次資料がその後の研究の方向性を決定づけました。

ゲーム内のキャラクターの行動や、プレイヤーに対する反応を決定する人工知能(ゲームAI)に興味があった生徒の例。彼は学ぶ中で、三宅陽一郎・山本貴光(2018)『高校生のためのゲームで考える人工知能』筑摩書房と出合いました。資料を参考に自身でゲームを制作し、ゲーム内のキャラクターが、プレイヤーにとっくに「本当に存在する」と感じられるかを研究の主題にし、また、制作したゲームのデータを文献の著者に取材依頼の手紙と共に送ると、東京の喫茶店で会ってくれることになりました。純粋なAIではなく、ユーザー体験を作るためのキャラクターAIや、それを管理するメタAIをどう作るのか、最新の制作現場における実際を学ぶことができました。取材に感銘を受けた生徒は、大学のシステム工学部に進学しAI研究に挑戦しています。

さらに、他のフィードバックの例を簡条書きしておきます。

- ・「レトロゲーム」を題材に、中古ショップで実際に古いゲーム機を買集め、プレイ体験をレポート。
- ・「コスバのいいゲーミングPC」を題材に保護者に“予算申請”し、大阪日本橋のPCショップ店員と仲良くなってアドバイスを受け、自作PC制作と評価試験を行う(愛機の名前は「WASABI_1st」)。
- ・その先輩の論文を読んで、後輩も自作PC制作に挑戦(愛機の名前は「Kento2」)。
- ・『太鼓の達人』のステージを自作し、学年で一番うまい生徒がクリアできるかを調査。
- ・「最も速い国産市販スポーツカーは何か」をテーマに、ドライビングシミュレーター『グランツーリスモ』を、同じコース・条件下で、エナジードリンク片手に1週間走り続け、ラップタイムを計測。
- ・難しすぎるシューティングゲームを作成し、学年の誰もクリアできない様にほくそ笑む生徒。
- ・「eスポーツ」黎明期に、支援企業に取材して就職のスカウトをされた(高校生)。
- ・父娘の二代で『ファイナルファンタジー』を楽しむ生徒が、息の長い人気に着目し、歴代作品をプレイして「ファイナルファンタジーらしさとは何か」を分析。

【レファレンス:児童書から専門書まで幅広いが、フィードバックとの接続が鍵】

「ゲーム総論」的な資料が複数あるので、その種の資料から読むように指導しています。職業調べの本や、ゲーム開発現場にフォーカスした資料をまず当てるのがよいでしょう。これら文献を通じて、「ゲームはこのように開発している」「ゲームはこのようにして『面白さ』を作っている」といった、ゲームデザイン、ゲームメカニクスなど、「なぜがハマるのか」の理解が進みます。こうした本の出版状況は安定しており、職業であれば児童書はもちろん、ある程度トピックが絞られたものは中高生から読める資料も多く、幅広い生徒に対応しているため資料探し自体は容易です。また、近年はゲームを研究対象とする学術研究・学会発表も増えています。そうしたゲーム研究の専門書も充実していますから、大人向けの資料も含めて生徒の読解をサポートできる体制があるなら、探究学習におけるゲーム研究はかなりの多様な展開が可能です。

ある程度研究が進むと、生徒はトピックごとに資料を読み分けます。ゲームプログラミング、CG、

AI、オンライン技術など、コンピュータ技術の分野、売り上げ統計や経営・マーケティング関連の分野、依存、eスポーツ、メカニクス、歴史、ボードゲーム、「ゲームと遊び学」を言及するものまで幅広く出版されています。市場分析については『2024 ゲーム産業白書』(メディアクリエイト)のような高価な本もありますが、ハードウェアの売上統計等もネットや新聞サイトで結構探せます。ただし、こういった各論レベルになると、生徒にとって難しい資料も増えてきます。どの分野でも言えることですが、研究テーマの深まらに応じて「難易度の高い本を読めるかどうかの壁」が現れます。特に特定タイトルやスタジオの作品を解釈・考察するような「作品研究」は、広範な知識や社会への視点と「教養」が求められるため、ゲームについて書かれた本だけでなく、横断的な読書が必要です。この点も、ゲーム研究をしたいと言う生徒が多くいる割に、研究を難しくしている一つの要因です。

とはいっても、たとえ難しい資料の壁に突き当たったとしても手がでないわけではありません。たとえば、教員のサポートのもと、資料をかいつまんでポイントのみを理解し、早めにフィードバック挑戦するのもよいでしょう。実践から理論へと接続しやすいのも、ゲーム研究の特徴です。昨今はゲームプログラミングのソフトも充実しています(無料の場合も多いです)。プロジェクトとして何か制作してみても楽しいです。また、多くの生徒が身近に触れているものですから、社会調査も比較的しやすいです。このようにして、生徒自身が実施した調査や、ゲーム制作といったプロジェクトが研究に組み込まれれば、たとえ資料が難しくともモチベーションも高く維持でき、オリジナリティのある研究になります。

【ブックガイド】

- 渡辺修司・中村彰憲(2014)『なぜ人はゲームにハマるのか 開発現場から得た「ゲーム性」の本質』SBクリエイティブ☆
- 小林信重(2020)『デジタルゲーム研究入門 レポート作成から論文執筆まで』ミネルヴァ書房☆☆☆
- 吉田寛(2023)『デジタルゲーム研究』東京大学出版会☆☆☆
- 中沢新一・中川大地遠藤雅伸ほか(2019)『ゲーム学の新时代 ゲームの原理 AIの野生 拡張するリアリティ』NTT出版☆☆☆

難易度のめやす
☆児童書
☆☆入門書
☆☆☆一般書
☆☆☆☆専門書



「興味」と「リテラシー」からみた生徒

アリバイ・コスバ学習観からの脱却できる？

探究学習における生徒理解

卒業論文をうまくやり遂げることのできる生徒と、そうでない生徒の特徴について分析したい。以下に述べるのは、探究学習を進める上での生徒理解のひとつの視点だ。

探究学習に付き合っていると、「読み書きの力があるのに、面白くなさそうでいかにも手放きの学びだな…」と感じる生徒がいる。一方で「力はいまひとつだけと自分の興味で頑張ってるなあ!」、という生徒もいる。こうした研究主題への「興味へのこだわり」の強弱と、「リテラシー」の高低を軸として、生徒を分類したのが右図である。

第Ⅰ象限 (右上)：興味への強いこだわりとともに、リテラシーも高い集団

第Ⅱ象限 (左上)：興味へのこだわりが弱い、リテラシーは高い集団

第Ⅲ象限 (左下)：興味へのこだわりが弱く、リテラシーも伴わない集団

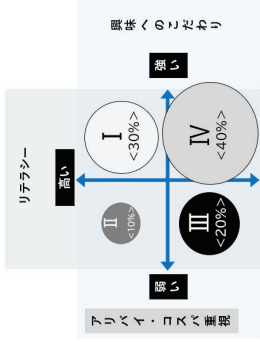
第Ⅳ象限 (右下)：興味へのこだわりを持つものの、リテラシーはそれほどない集団

さて、それぞれの集団の割合は、「Ⅰ」から反時計まわりに、およそ 3 割・1 割・3 割・4 割である。感覚的な判断である。見方を変えたと、自分の題材に興味を持って、卒業論文を終えた生徒が右半分の約 7 割、そうでない生徒が左半分の 3 割である。

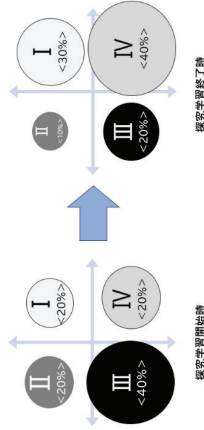
興味へのこだわりは変わるが、能力はそれほど変わらない

ときに、この分布は探究学習の開始時から固定してはいない。時間の経過とともに、全体が左半分 (Ⅰ・Ⅲ) から右半分 (Ⅱ・Ⅳ) に移る傾向がみられる。それを示したのが右図である。これまた感覚的なものだが、授業での様々な働きかけによって、自らの興味にこだわっていく生徒が次第に増加していく。全体として、最終的にはそうした興味こだわり群の生徒が全体として 7 割にまで増えるという感触がある。

一方、比較的にリテラシーの高い生徒は 4 割、そうでない生徒は 6 割であり、その割合は探究学習を通じてそれほど変わらないように思われる。



興味とリテラシーを軸とした生徒の分類
(授業終了時点の分布)



各集団の特徴

各象限について、それぞれについて思い当たることを記しておく。

第Ⅰ象限の生徒からは優れた作品が生まれてくる。将来の進路や職業を見据えた、あるいは、それらを感じて取り組んでいるような場合も多い。例としては、クラシックコンサート専門のホール、高松塚古墳、ドクターヘリ、地獄絵…などいくつかの作品がすぐに思い浮かぶ。

第Ⅱ象限の生徒には女子が多いようだ。同時に「取り組みやすい題材」が頻繁に現れる。興味よりもアリバイやコスバを重視する集団である。具体的な研究主題としては、犬や紅茶・チョコレート・色など。共通しているのは、資料が豊富にあり、友達の手前、それなりに見栄えが良さそうな題材を選ぶ。開始当初は薬剤師と言いつつ生徒もいるが、興味のなさを指摘されほとんどが撤退する。要は、常識の範囲で何とか「当たりがつく」題材で研究をしがちながこの集団だ。特徴として共通しているは「おわりに」に書かれる動機の弱さだ。具体的なエピソードが薄く、分量が少ない。とはいうものの、かれらの論文作成は表面上順調で、ルールを守ったピースがそれなりに増えていく。手がかからないので、支援者側も余り注目せずにいるのだけれど、論文が完成に近づくと「自身が好きなことを確認するだけ」「引用ばかりでコメントが伴わない」論文になりがちで、ここに来て興味の弱さが露見する場合も多い。愛称のアイデアとしては「ハカセちゃん」だ。「調べました学習で事足りる」という誤解、「知識のコレクション・引用と羅列で論文ができる」という誤解をしているため。

第Ⅲ象限は最後まで論文がしあがらない厄介な集団だ。さきの第Ⅱ象限のハカセちゃん集団のように取り組みやすそうな題材を選ぶ一方、とにかく好きな事柄、目先夢中なゲームのタイトルを選んだりもしがちだ。ウケを狙った題材を選ぶ男子生徒も多い。図書館から資料を様々にレファレンスしたとしても、読み書きの力、そして気力もないので、作業は思うように進まない。結局のところ、何度も題材を変えながら興味と力とが追いつかないまま最終局面を迎える場合も多い。追いつめられてか、授業中暗い液晶画面にあたかも内観法のように見続けて時間の経過を待つような生徒も時に現れる。こうした生徒のうちの 10 数名 (学年の約 10%) は居残りを経ても、仕上げられないまま時間切れになる。そうした学習観がなぜ育ってしまったのか、探究学習支援の研究において、最も興味深い集団と言える。

第Ⅳ象限は面白い集団である。リテラシー的にはいまひとつで執筆はなかなか進まない。しかし、よく読んでいて、インタビュースーツとかなりの言葉がふれ出る。「おわりに」も個人的なエピソードが豊かだ (とはいえキーボードが得意でないので分量も少ない)。ほとんどが論文を提出できるものの、中には自分の書いたものに不満が残る、提出で

きません」といって、学年末に積極的に居残って書いていく生徒もいる。それどころか、次の年まで引きずって高校になっても研究を続けるようなタイプもいる。こうした生徒の伸び代は大きく、添削される中で文章が上達する場面にもであう。場合によっては、学力もそれに引きずられるように高くなり推薦入試に合格したり、特待生を獲得し卒業する生徒もいた。

このように授業で問題になるのは、第Ⅱ・Ⅲ象限 (図左側) の生徒たちだ。どんな働きかけが、興味にこだわらないアリバイ・コスバ学習観から彼らが脱却させるのか。その手法・ドラマは別稿に譲ろう。



総合図書館 清教学園リブラリア

2024 年度事業報告

発行日：2025 年 5 月 27 日

著者：清教学園中・高等学校 図書館教育

印刷・製本：清教キャンパス

連絡先：

〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

TEL 0721-62-6828



本報告書はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用しています。クレジット（著者、発行者）を表示し、かつ内容を改変しないことを条件に、非営利目的での利用（転載、複製、印刷、共有）が行えます。ご不明な点は清教学園図書館までお問い合わせ下さい。